

佐々木毅著「宗教と権力の政治－哲学と政治・講義Ⅱ－」講談社学術文庫、講談社 2012 年 11 月 20 日刊を読む

政治の任務－宗教と政治－

1. 政治の任務は(予算を通しての)利益の配分問題であるというある種の固定観念(がある)。
2. しかし、歴史的にいえば、宗教と政治とは極めて深く入り組んだ関係にある。
3. 政治と宗教との関係が込み入ったものになるのは、両者が共に人間の忠誠心から離れられないからである。
4. この(政治と宗教の)ふたつはそれぞれの忠誠心を要求するが、その要求の範囲や程度は人間の行動を大きく方向づける。
5. そのため、こうした範囲や程度をめぐって(政治と宗教の)双方が交錯・衝突することは容易に想像できる。
6. この問題についてどのような(政治と宗教)両者の棲み分けや共存の仕組みをつくるかは政治思想史の重要な一環をなすことになる。

*()は林によるつけ加え。

P3 ～ 4

[コメント]

政治とは「税金の配分」であるという考えだけでは現代社会の紛争を解決することはできない。「宗教と権力」の政治に及ぼす影響ほど大きなものはない。この政治についての最大のテーマを、元東京大学総長で現学習院大学教授の佐々木毅先生は、中世にまで遡り政治思想史の観点から考えたのが本書である。歴史上初めてアルゼンチン出身のローマ法王も誕生したので、宗教と政治への関心を本書で深めたい。

－ 2013 年 3 月 14 日 林 明夫記－